

# クッブ

## 1. 概要

バイキングたちが生み出したスウェーデン生まれのスポーツです。体力差は関係なし、誰もが楽しめる平坦な自然のフィールドなら雪原や海岸などでも気軽に楽しめる、エコロジカルなスロースポーツです。

## 2. 特徴

両チーム5個ずつのクッブ（角材）を自陣コートに並べて、先攻後攻を決めます。先攻チームからカストピンナ（丸棒）を投げて、相手コートのクッブを倒します。全部のクッブを倒せば、キングを倒せます。先にキングを倒したチームの勝ちです。ただし、相手チームに倒されたクッブは、攻撃時に相手コートに投げ入れ、まずはそのクッブを倒さないと相手のベースラインにあるクッブは倒せません。ゲーム展開や攻防、作戦を知るとゲーム展開がグッとおもしろくなります。

## 3. 用具



左から・キング1個・カストピンナ（丸棒）6本・クッブ（角棒）10個・コーナーピンナ4本

4. コート 5×8 m（または4×6 m）

5. 人数 原則6人で6本のカストピンナを投げるが、1チーム2～3人程度で複数回投げてもよい（2チームで対戦）

## 6. 競技方法

- (1) コートの4角にコーナーピンナを立てコートの範囲を特定します。
- (2) コートの中央にキングを配置します。
- (3) それぞれのベースライン（ショートサイド）に各5個のクッブを均等に置きます。  
これらをベースクッブと呼びます。
- (4) 先行、後攻の決め方は各チーム代表1名が各コートのベースライン後方からカストピンナを同時にキングに向けて投げ、カストピンナの先端か後端がキングに近いチームが「先攻/後攻」か「コートの選択権」のどちらかを得ます。
- (5) カストピンナを投げる際は必ず“下手投げ”でかつ“バトンパス”のように投げます。相手のクッブに直接当ててもバウンドして当てても大丈夫ですが、いずれにせよクッブが倒れないといけません。
- (6) 相手のクッブをすべて倒し、最後にキングを倒したチームが勝ちとなります。

## 7. ゲームの流れ

- ここではAチームを先攻、Bチームを後攻とします。ゲーム開始直後は先攻チームは2本、後攻チームは4本を投げ、以後はお互いに6本ずつ投げ合います。
- まずは、AチームがキャストピンナをBチームのベースクップめがけて投げ、2本倒しました。Bチームは、倒されたクップをAチームのコートに自陣のベースラインの後方から投げます。(図1)
- 投げ入れた際、相手コート外に出て止まったものはファウルとなり再度投げ入れます。この際、投げ入れるフィールドクップをすべて投げ終えた後に投げ直しを行います。
- 2回続けてファウルした場合は、相手チーム(Aチーム)が自陣内の任意の場所(好きなどころ)に置くことができます。つまり、自分たちに有利な場所に置くことができます。ただし、キングからはキャストピンナ分の長さの間隔を空けなければなりません。
- Aチームは、チームより投げられたクップの両サイドの一方を選び、そこを基点にしてクップを起こします。これらのクップをフィールドクップと呼びます。(図2)
- BチームはまずはじめにAチームのコート内にあるフィールドクップをすべて倒し、すべて倒し終えた後にベースクップを倒すようにします。フィールドクップが残った状態でベースクップを倒しても、元にあった場所に戻されます。
- Bチームは、1本のフィールドクップしか倒せなかったとします。再びAチームの投げる番になり、Aチームは1本のフィールドクップを投げ返します。
- すべてのフィールドクップを倒しきれなかった場合、次に投げるAチームは、残っているセンターラインに一番近いクップまで前進してキャストピンナを投げる事が出来ます。(図3)
- 以上を繰り返し、相手チームのすべてのクップを倒したチームが、キングを倒す権利を得ることが出来ます。最終的に先にキングを倒したチームが勝者となります。
- キングを倒すための投てきについては、ベースライン後方から行わなければなりません。
- 相手チームのクップをすべて倒す前に誤ってキングを倒した場合、その時点で負けとなります。

